

公益社団法人私立大学情報教育協会
2019年度第2回短期大学会議教育改革ICT運営委員会議事録

- I. 日時 令和元年7月6日(土) 13:30~15:30
場所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室
- II. 出席者 戸高委員長、三田委員、西岡委員、大重委員、後藤委員(ネット参加)
(事務局 井端事務局長、中村)

III. 検討事項

1. 2019年度短期大学教育改革ICT戦略会議の開催要項決定

前回の討議を踏まえ以下の通り、戦略会議の開催内容の具体的な確認と検討を行い、開催要項を決定した。

- (1) シンポジウムと事例紹介は、前回の議事内容を踏まえ、概ね進め方を再確認した。
(2) 全体討議の進め方については、前回の議事内容及び小委員会での検討結果を踏まえ、地域貢献活動の支援モデル構想案について意見交換を行い、次回委員会で決定することにした。その際、以下のような意見があり、再度小委員会で検討を重ね、最終的な構想案を次回委員会で作成することにした。

※「提案の趣旨」には、SDGsの活動にも繋がることも含めることにした。また、短期大学固有の特徴を表現するため、地域社会と短期大学(教職員、学生の一体化)が接続して新たな価値創造の活動を展開することを確認した。

※「短期大学による地域貢献事業の内容」としては、一つは高齢者との交流を促進し課題の解決策を導き出す支援事業、二つは地域価値を発見・発信する支援事業、三つは地域課題のアーカイブと解決に向けた取組みを共有する支援事業、四つは自治体のイベント動員を支援する事業などとし、アンケートを踏まえ2件程度とする。

※「支援事業の意義と期待される効果」としては、一つは地域の課題解決に大学、自治体等がプラットフォームを通じて自前主義の教育から脱却し、分野横断的な学びを通じて成果を社会実装につなげることが期待できる。二つは希望する学生を対象に課題探求型の実践学修を通じて、社会人基礎力の向上、問題発見・解決力、コミュニケーション力、行動力の向上が期待できる。三つは地域のニーズに沿った担い手の育成に短期大学が一体となって取り組む画期的な「大社接続」の事業として、短期大学の存在感を強く発信できるとした。

※「本協会の役割」としては、地域貢献支援事業のモデルを短期大学に提案するため、有志短期大学によるパイロット事業化モデルを策定し、試行を踏まえて検証し、実現可能なモデルをとりまとめ、有志短期大学による事業の参加を働きかけることとした。
また、全国の短期大学に周知し、一定数以上(10校程度)の有志参加校の確保と、必要に応じて地域の自治体及び民間セクターにも事業の有意性を紹介し、連携の協力を働きかけることとした。

なお、有志短期大学間によるプラットフォームの設置、費用負担については、本協会の短期大学会議教育改革ICT運営委員会においてパイロット事業化に伴う運営体制、費用負担のあり方について、実現可能な具体化計画を作成し、合意形成を目指すことにした。

※「支援事業に求められる 学生が身に付けるべき知識・技能の内容と学修方法」として

は、有志短期大学が確定し、事業選定が確定した段階で改めて検討する必要はあるが、例えば、高齢者と対話する知識・技能、対話を記録・編集・配信する知識・技能、プラットフォームモデルを設計する知識・技能、スマホを活用した映像収録・配信技能などが考えられる。

※ 「課外学修の仕組み」としては、①学生の自発的な意思に基づく社会貢献活動を通じて、大学での学びを社会に還元し、社会での体験を通して知識や理解を深めるサービ斯拉ーニングの選択科目群として単位認定する。②学生が在学中に同一の支援事業に複数回参加できるように、複数科目群として開講する。③自治体、企業、民間団体との連携は、本協会と有志短期大学の双方で役割を分担して行う。④学生の地域活動は、地域での対話や活動等の記録を映像に記録し、問題提議や課題解決に向けた提案の根拠資料、活動成果 web コンテンツ、次の活動に参加する学生のための動機づけ教育コンテンツとして活用する。⑤スキルトレーニング等の web コンテンツ化による学生の事前指導への活用や、地域指導者ともコンテンツを共有し、教育についての共通認識を高めコンテンツの充実について理解と協力を求めることとした。なお、④⑤については、参加校に負担がかからないような工夫をするため、改めて内容を推敲することとした。

※ 「プラットフォームの環境と運営」については、有志の短期大学間で蓄積された情報を共有するため、短期大学が管理する LMS 等にそれぞれ情報を蓄積し、共同運用のクラウド型のグループウェアとしてサイボーズなどを導入することで、有志短期大学の負担がそれぞれ年間 3 万円程度を目指すこととした。また、クラウド型のグループウェアを管理負担を軽減するためにマイクロソフトの協力を得るなどの方法も含め、引き続き小委員会で、検討を続けることとした。

※ 「有志短期大学の役割・情報環境」については、一つは協力高齢者・協力施設の確保、二つは授業を展開する有志短期大学の強みとすることによる参加短期大学生の確保、三つはネット環境について学内の情報設備の使用、学内の情報センターとの協力体制など、四つは高齢者や学生に録画映像について承諾書を作成するなど、録画した映像をアップするプラットフォームの確保などの検討が必要であることを確認した。

2. その他（次回委員会の日程）

今回は、8月22日（木）13時に事務局で開催することとした。それに先駆けて委員会開催までに「短期大学による地域貢献支援事業の構想案」について小委員会で検討を行い、事務局の修正案を踏まえて最終的に決定することとした。